

平成26年度
技術監理室予算要求方針

【目次】

- 1 平成26年度技術監理室予算要求総括表及び経営方針・・・1
- 2 重点的に取り組みを行う主なもの・・・・・・・・・・・・・・3

1 平成26年度技術監理室予算要求総括表及び経営方針

(1) 平成26年度技術監理室予算要求総括表

【一般会計】

平成26年度要求総額 99,818千円
 (平成25年度予算額 106,448千円)
 前年度比 ▲6.2%

《主な事業》

(単位：千円)

事業名	平成26年度 予算要求額 (A)	平成25年度 予算額 (B)	増減 (A-B)
新 北九州市の都市づくり担い手育成事業	4,252	0	4,252
新 (仮称) 公共工事安全パトロール隊設置経費	7,300	0	7,300
新 建設材料試験場設備改修事業	7,323	0	7,323
技術管理関連業務	64,066	67,289	▲3,223
建設材料試験場管理運営事業	9,687	9,687	0

(2) 平成26年度技術監理室経営方針

技術監理室は、建設行政の様々な課題に対し、建設系事業部局を技術面や人材面などを含めて総合的に支援・指導する組織です。

平成26年度も、公共工事の品質確保や、公共事業のコスト構造改善などに取り組みます。

① 公共工事の品質確保

- 公共工事の適正な執行を図るため、設計単価の設定及び設計積算基準等の整備、更新に取り組みます。
- 公共工事の発注に際しては、価格に加え品質を高めるための創意工夫や施工実績などの要素を評価して落札者を決定する総合評価落札方式に取り組みます。
- 公共工事の設計、施工のチェック機能を的確に発揮し、公共工事の品質や安全性の確保・向上を図ります。

② 持続可能な循環型社会の構築

- 公共工事において、環境に配慮するとともに、建設副産物の再資源化や建設リサイクル資材の利用促進により建設リサイクルの推進を図り、資源循環型社会への転換に取り組みます。

③ 公共事業のコスト構造改善・効率化

- コストと品質の両面を重視する「コスト構造改善」の観点から、引き続き、工事コストやライフサイクルコスト等の改善に取り組むとともに、計画的な維持管理を推進するなど、公共事業の最適化・効率化に取り組みます。

④ 技術職員の人材育成

- 平成25年4月に策定した「技術職員人材育成プラン」に基づき、次世代を担う技術職員の人材育成に取り組みます。

2 重点的に取り組みを行う主なもの

- (1) 市場動向を適切に反映した工事資材単価の設定と、施工実態を反映した設計積算基準等の整備により、適正な工事価格の設定に努めます。
- (2) 総合評価落札方式に継続的に取り組むとともに、より優良な社会資本の整備が図られるよう評価項目を検討するなど制度の充実を図ります。
- (3) 完成後の工事検査だけではなく、中間技術検査や安全点検などにより施工中の工事を監理し、必要な指導を行うことで公共工事の品質向上を図ります。
- (4) 社会インフラの計画的維持管理を推進し、公共施設の維持管理の効率化やライフサイクルコスト構造の改善に取り組めます。
- (5) 実習形式の研修を重点的に実施し、より実務に即したノウハウの習得を図り職員の技術力維持向上に努めます。
- (6) 公共事業を支える若年就業者の減少が顕著に見られ、将来のインフラ管理に携わる担い手不足が懸念されることを踏まえ、産学官が連携し、建設産業の魅力アップに取り組み、将来の都市づくりの担い手を育成します。
- (7) (仮称)公共工事安全パトロール隊を設置し、市が実施する公共工事等の安全確保に努めます。